

D14-1

旅 費 請 求 内 訳 表

旅 行 先 東京都(特別職)		用 務 政務活動のため					旅 行 期 間 自 12月8日 至 12月8日		日 数 即日	
月 日	旅 行 経 路	路 程 km	鉄 道 賃 運 賃 特 別 料 車 金 急 行 料			船 賃 航 空 賃	車 賃 実 費 又 は 定 額	日 当	宿 泊 料	摘 要
										定額表利用 A1451
										合計
	計	0.0	-	-	-	-	-			¥ 46,620 円
航空機利用区間						公用車等利用区間				
請 求 書 下記のとおり請求します。 令和 年 月 日 創和クラブ 代表者 中村 元彦 様										
所 属 職 位	等 級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印	
議 員	市長級	-			A1451 D1 43,980 2,640	46,620	古川 祐典			
計		- 円	- 円	- 円	46,620 円	46,620 円	1 人			

整理番号

D14-1

令和7年3月10日

活動報告書

創和クラブ経理責任者

芝本 和己 様

報告者名 古川 祐典

下記の通り、報告します。

日 時	令和6年 12月 8日 ~ 令和 年 月 日 (泊 1日)
場 所	東京都北区滝野川会館 5階小ホール、旧古河庭園
目 的	和歌山市と東京都北区との連携事業 陸奥宗光伯生誕180周年記念講演「日本外交の祖陸奥宗光伯の足跡～北区と紀州 和歌山の意外な関係」傍聴参加、
内 容	旧古河庭園見学

陸奥宗光伯が住んでいた土地旧古河庭園を見学、北区との交流の拠点、シンボルの一つになると確信、その後、講演参加

【北区と和歌山の意外な関係】

「遠くと近くの熊野 中世熊野と北区」国学院。神奈川大学講師 石倉孝祐氏

○学術的に800年以上前、平安末期、鎌倉の時代から北区には和歌山に関わる神社が沢山あり、紀州神社は伊太祁曽神社も和歌山から勧請したものである。江戸時代に村人自ら書かれた歴史書古文書にもこの村人は和歌山からやって来たと書かれている。鎌倉の時代、紀州熊野三社より王子神様をお迎えし祀っている。飛鳥山は、新宮の飛鳥神社から由来する。和歌も和歌山から人を連れてきて指導している。地名の由来、土地の人がそれらを大切に守ってきた事、吉宗の事績、青石の巨石、桜を植えた事、飛鳥山の開発の由来、古い家柄は皆紀州出身といわれている事等々。和歌山との関係は深い。

「日本外交の祖陸奥宗光伯の足跡北区と紀州和歌山お意外な関係」

明治学院大学准教授・佐々木雄一氏

「外交の祖」と名付けた先生。

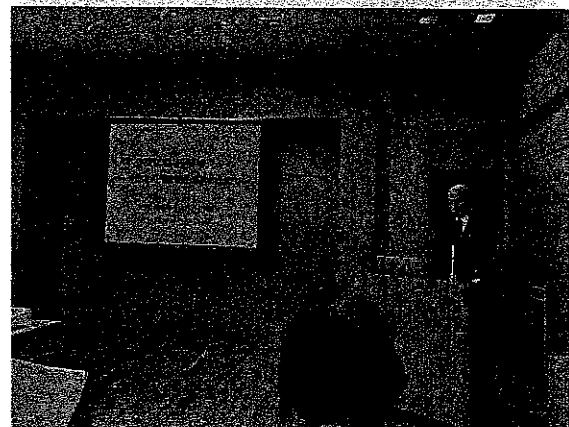
○陸奥は少年期から江戸に出る。時代は幕末、鎖国から開国へ。志士活動の活躍、坂本龍馬暗殺をきっかけに政治の世界へ時代は明治に、陸奥は自分の能力に自信を持っていたが、薩長藩でなく、後ろ盾はなかった。陸奥は政治に関わり始めていたが、土佐の政府転覆計画に関わったとして逮捕、獄中から出て政府が憲法開設、議会制の導入を控え外遊イギリスで議会政治を学ぶ。メキシコと対等の条約領事裁判権を撤廃。政府での初の役職は農相大臣、次に外務大臣、最後外交の数年間で輝きを放った。外交で海外との条約改正、関税自主権の回復、北区との関係まずは、古河庭園である。古河財閥とのかかわり、古河市兵衛は古河財閥の創始者で陸奥伯の10歳年上、陸奥伯の父からのご縁で三井等実業界にも関りがあったが、一番親しかったのが古河市兵衛であった。そこで次男・純吉が養子となり、鉱山事業にとり組んだが早くに亡くなる。

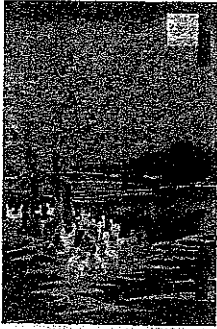
渋沢栄一と陸奥伯との出会いに関り、外遊での資金調達、政府も陸奥に外遊に行かせたかった。

外遊を進め資金援助の一人が渋沢であった。外遊で見識を深め学べる機会が出来たのは渋沢の資金力、繋がりよるところが大きい。

	-
--	---

内 容





名所江戸百景 王子装束祭の本
大岡政談 初代頼川広重画(安政4年)
北区飛鳥山博物館所蔵

東京都北区



R6.12.8 北区連携事業
文化施策アドバイザー

(学芸員)

陸奥伯講演会 北区との関係
と講演

石倉 孝祐

Takasuke Ishikura

東京都北区王子 1-11-1 (〒114-8503)

北とびあ 10 階

TEL 03 (5390) 0093 FAX 03 (5390) 0097

e-mail kitabunkasesaku@gmail.com



緑と水 まちを豊かに 緑豊かな環境を創る会

公益財団法人 東京都公園協会

<https://www.tokyo-park.or.jp/>

公園事業部 文化財庭園課

旧古河庭園 副サービスセンター長

岡部 直子

おかべ

なおこ

〒114-0024 東京都北区西ヶ原1-27-39

TEL 03-3910-0394 FAX 03-3916-8166

E-mail okabena@tokyo-park.or.jp



R6.12.8 北区との連携事業「北区と小笠山の関係」

和歌山県東京事務所 プロモーションチーム

イベント参加

課長代理

萩 さおり

Hagi Saori



〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3

都道府県会館12階

TEL: 03-5212-9057 携帯: 090-3409-6655

FAX: 03-5212-9059

E-mail: hagi_s00028@pref.wakayama.lg.jp



R6.12.8 北区との連携事業

法学部 准教授

佐々木 雄一

Yuichi SASAKI

「陸奥伯の祖」

陸奥伯と北区の関係 12月7日
講演

DO FOR OTHERS



明治学院大学

東京都港区白金台1-2-37 〒108-8636

Tel 03-5421-5209 / Fax 03-5421-5692

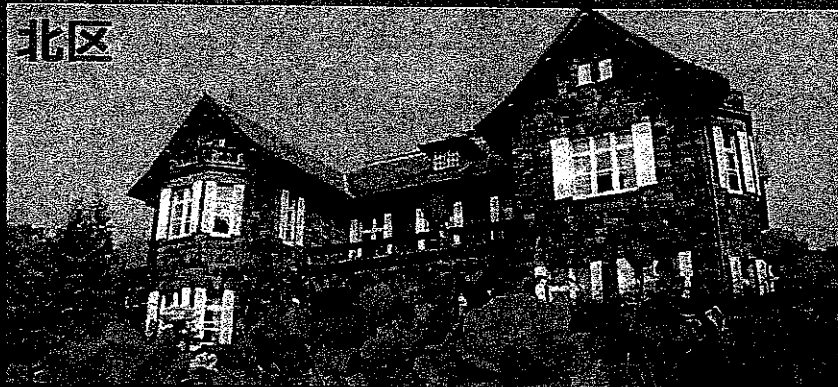
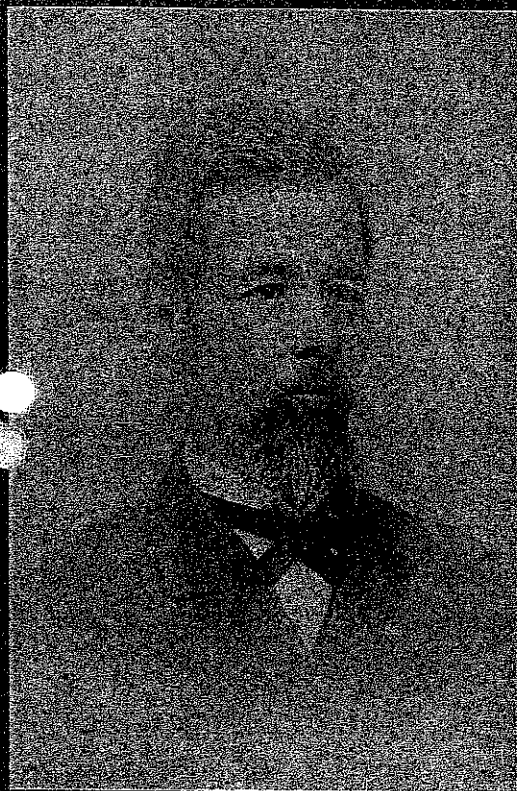
E-mail yusasaki@law.meijigakuin.ac.jp

<https://www.meijigakuin.ac.jp>

陸奥宗光伯生誕180周年記念講演【参加無料】

12/8(日)

日本外交の祖 陸奥宗光伯の足跡 ～北区と紀州和歌山の意外な関係～

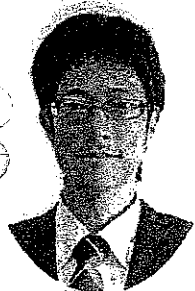


北区



和歌山市

基調講演



佐々木 雄一 氏

明治学院大学 准教授

主な著書

- ・陸奥宗光「日本外交の祖」の生涯 (中公新書)
- ・近代日本外交史-幕末の開国から太平洋戦争まで (中公新書)

北区飛鳥山博物館で開催された以下の展示図録などを担当

『遠くと近くの熊野 中世熊野と北区』

『飛鳥山三百年展 楽しい！ だから続く、吉宗がつくった江戸のワンダーランド』

特別講座



石倉 孝祐 氏

北区文化施策アドバイザー／國學院大學・神奈川大学講師

【日時】 2024年12月8日(日)14:30～16:00(14:00開場)

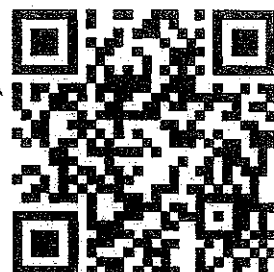
【会場】 北区滝野川会館 5階小ホール 東京都北区西ヶ原1-23-3

【定員】 80名(先着順)

【主催】 和歌山市 【共催】 東京都北区

11/25(月)
締切

お申し込みは右記のコードから
または裏面のFAX申込書でも申込可能です



問合せ 和歌山市広報広聴課 073-435-1009 または 和歌山市東京事務所 03-5212-9193

記者発表

<東京都北区と同日提供>



令和6年10月22日

担当課	防災課
企画課	企画課
広報課	広報課
担当者	松林、天野、榎本
電話	(073) 435-1199 (073) 435-1015 (073) 435-1009
内線	5017、2562、2441

東京都北区との連携事業を実施します

本市と東京都北区は、飛鳥山公園や旧河庭園など、歴史的な関わりが深く、ゆかりがあるスポットが多くあり、連携を進めてまいりました。今後、地域課題への対応や地域交流の活性化を推進するため、両者で実施する連携事業の詳細が決まりましたので、お知らせします。

○本市とゆかりのあるスポットの一例

【飛鳥山公園】

八代将軍徳川吉宗の命によって享保5年(1720)から翌6年にかけて、飛鳥山に1,270本もの桜が植えられ、江戸における桜の一大名所となりました。現在も桜の季節になると多くの花見客で賑わいを見せています。

【旧河庭園】

この庭園はもと本市出身の陸奥宗光の邸宅でした。次男が古河家の養子になったのち、古河家の所有となりました(尚、この当時の建物は現存していません。)現在の洋館と洋風庭園の設計者は、英国人ジョサイア・コンドル博士(1852～1920)です。平成18年1月26日に文化財保護法により国の名勝指定を受けました。



【1】災害時における相互応援に関する協定(総合防災課)

能登半島地震や南海トラフ地震臨時情報の発表を踏まえ、本市における災害対応力の向上や被災者支援の充実を図るために、災害時における相互応援協定を締結します。

1 協定概要

大規模な災害が発生した場合において、円滑な災害応急対策及び災害復旧対策を行うための応援を実施します。

- (1) 食料、飲料水等の提供
- (2) 車両、資機材等の提供又は貸与
- (3) 職員の派遣
- (4) 被災者の一時収容のための施設の提供
- (5) 被災児童、生徒等の一時的受入



2 協定締結式

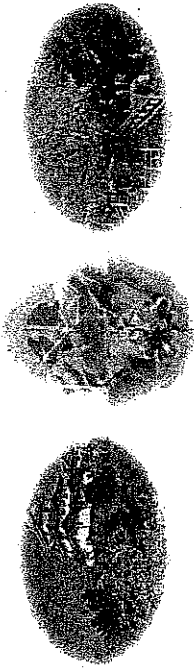
- (1) 日時 令和6年11月5日(火) 11時00分
- (2) 場所 和歌山市役所本庁舎7階 記者会見室
- (3) 出席者 東京都北区長 やまだ 加奈子
和歌山市長 尾花 正啓



【やまだ区長】

【2】八代将軍ゆかりの桜の枝交換

本市のシンボルである和歌山城と東京都北区の飛鳥山公園は、ともに八代将軍徳川吉宗ゆかりの桜の名所です。そこで両者の交流の証として、桜の枝を交換し、1年後に植樹を行います。



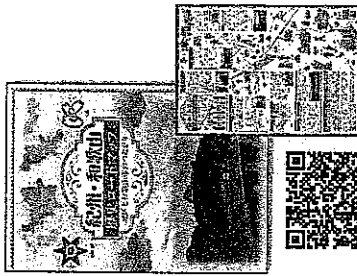
【3】その他の交流事業(広報広聴課)

1 本市ゆかりのウォーキングコースを新設～本市の情報発信～

北区に所在する名所である清光寺、紀州神社、王子神社、飛鳥山公園、平塚神社、旧河庭園及び六義園(文京区)を結ぶコースに、各所の解説を加えたマップを作成し、和歌山市と北区のつながりや歴史をPRします。

※「紀州・和歌山歴史ロード」は、北区の健康づくり総合アプリ「あるきたアブリ」に「歴史探訪コース(紀州和歌山編)」として追加されています。

※北区健康政策課主催で、11月16日(土)～30日(土)の期間限定キャンペーンとして「あるきた de 和歌山ウォーク」が開催されます。



あるきたアブリ

2 「紀州・和歌山歴史ロード」ウォークイベントの実施(メディア関係者向け)

- ・日時 令和6年11月5日(火) 13時30分～16時00分
- ・申込 和歌山市東京事務所宛(tokyojimusho@city.wakayama.lg.jp)

3 「陸奥宗光伯生誕180周年記念講演」の開催(要申込み)

- ・講演名 「日本外交の祖 陸奥宗光伯の足跡～北区と紀州和歌山の意外な関係～」
- ・日時 令和6年12月8日(日) 14時30分～16時00分
- ・場所 和歌山会館 小ホール(東京都北区西ヶ原1-23-3)
- ・講師 明治学院大学 准教授 佐々木 雄一氏
北区文化施設アドバイザー／國學院大學・神奈川大学講師 石倉 孝佑氏
- ・定員 80名(先着順)
- ・主催 和歌山市
- ・共催 東京都北区

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	D16 - 1

項目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 3 月 19 日

支出額

500 円（按分率 %）

支出内容

参加費（2025/3/15 「和歌山のまちづくりと日本の未来」
和歌山城ホール

備考

和歌山の
まちづくりと
日本の未来

2025/3/15(土)

会場

和歌山城ホール(小ホール)

18:00 受付

18:30 開演

整理番号

D16 - 1

政務活動費支払証明書

会派名 創和クラブ

項目

☒ 研究研修費 ☐ 調査費 ☐ 広報費 ☐ 広聴費 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費 ☐ 資料作成費 ☐ 資料購入費 ☐ 人件費 ☐ 事務所費

支払年月日

令和 7 年 3 月 19 日

支払額

500 円

支払先

志宏会

支払内容

和歌山のまちづくりと日本の未来

支払証明をする理由

チケット半券のみの為

上記の金額を支払いました。

令和 7 年 3 月 19 日

支払者名

古川祐典



上記のとおり支払したことを証明する。

令和 7 年 3 月 19 日

経理責任者名

足本和乙



※金銭の支払いに関する証拠書類を徴することができない等のため、政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙に当該証拠書類を貼付することができない場合は、本書を作成することをもって、これに代えるものとする。

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	018 - 1

項目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
☐ 資料作成費
☐ 資料購入費
☐ 人件費
☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 3 月 26 日

支出額

4,275 円 (按分率 %)

支出内容

令和6年度会費 和歌山県自閉症協会
 (4000 + 275 = 4,275)

備考



自動サービスコーナー

ご利用明細票

お取扱日	取引店番/機番
07-03-26	234/12 I
お取引内容	
振込	お取引金額
	¥4,000
おつり	手数料(含消費税)
	¥275
1万円 5千円 2千円 1千円 硬貨 円	
10:53	口座残高
	¥5,697,581
ゆうちょ銀行	
〇九九	
当座	
〇クヒ)ワカヤマケンジ ハイシヨウキョウカ	
様	

暗証番号の
 おまけ
 生年月日や電話番号など他人が知り得る番号を暗証番号に使用されているお客様は、速やかに変更ください。
 <暗証番号はATMで簡単に変更いただけます>

ワルカワ マサノリ 様

お知らせ

© 1996

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	D20 - 1

項目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
☐ 資料作成費
☐ 資料購入費
☐ 人件費
☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 3 月 28 日

支出額

46,620 円 (按分率 %))

支出内容

旅費 (東京 3/26)

備考

※ 旅費請求内訳表 添付

旅 費 請 求 内 訳 表

D20-1

旅 行 先 東京都(特別職)		用 務 政務活動のため					旅 行 期 間 自 3月26日 至 3月26日		日 数 即日
月 日	旅 行 経 路	路 程 km	鉄 道 賃 運 賃	特 別 料 両 車 金	急 行 料	船 賃 航 空 賃	車 賃 実 費 又 は 定 額	日 当 宿 泊 料	摘 要
									定額表利用 A1451
8 8									合計
計		0.0	-	-	-	-	-		¥ 46,620 円

航空機利用区間

公用車等利用区間

請 求 書

下記のとおり請求します。

令和 年 月 日

創和クラブ 代表者 中村 元彦 様

所 属 職 位	等 級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印
議 員	市長級	-			A1451 D1 43,980 2,640	46,620	古川 祐典		
計		- 円	- 円	- 円	46,620 円	46,620 円	1 人		

整理番号

D20-1

令和7年 3月28日

活動報告書

創和クラブ経理責任者

芝本 和己 様

報告者名 古川祐典

下記の通り、報告します。

日 時	令和7年 3月 26日 ～ 令和 7年 3月 26日 (泊 1日)
場 所	参議院議員会館 B101会議室
目 的	令和7年度こども・子育て関連予算、地方創生交付金、自治体関連予算 勉強会 別紙行程表・レジメ参照
内 容	○子ども家庭庁より R7 年度子育て関連予算について茗荷寛之総務課参事官予算担当補佐が予算についての重点項目、趣旨説明があった 特に、厚労省より出産時の経済的負担の大幅な軽減、子供だれでも通園制度本年度で制度化、来年度からは実施に向けた動き、保育士の配置改善、保育士の質の向上、処遇改善、児童手当所得制限撤廃等予算も全体的に 1 兆円規模で拡充され、削減はされた施策はない。国を挙げて子育て支援隙間の無い取り組みに力を入れようとしている中、今後いかに地方でその予算をしっかりと獲得、活用し現場に反映されるよう、本市の子育てにどれだけ役立てる事ができるか、地方行政の在り方手腕が問われる。 一方、地方からまだまだ国へ要望する事も多い、その洗い出しを明確にすることが必要。 ○地方創生交付金について、佐藤弘康内閣官房新しい地方経済・生活環境創生本部事務局参事官補佐よりレク産官学がいったいとなった取り組み、これまでソフト、ハード事業に分けて使われていた交付金も一体化させ、広く使えるように拡充、スタートアップ企業や地域独自産業の活性化、支援策にも拡充がはかられ新規事業、独自産業の育成、魅力ある街づくりのため自治体が頑張れるよう国からの底上げ応援がはかられている。資金面での使いやすさに加え防災、防犯力を向上するための予算も第2世代交付金、拠点整備事業としても新たな予算が組まれている。 ○自治体関連予算について総務省、有村誠一郎大臣官房会計課課長補佐、丸尾豊自治行政局住民制度課デジタル基盤推進室理事、官中野秀樹マイナンバー制度支援室課長補佐、梅谷実聖自治行政局地域政策課係長、宮崎正志自治財政局交付税課課長補佐よりレク 地域おこし協力隊員の活動に要する経費、マイナンバー所得率の向上、現在枚数カウントでは 78%、マイナンバーの仕様拡充、車の運転免許証との一体化、マイナンバー発行から 10 年初めての更新の方が始めていることへの対応、整備が遅れている自治体情報システムの標準化整備のためさらなる支援、整備期間延長への対応、電子証明書の短期発行、コンビニシステム更新対応への予算は見越していない。

内 容

地方財政計画の概要、103 万円の壁は 123 万円に主に所得税が 0.7 兆円の減になるが、交付金等地方への影響は無いようにする。地方財政の健全化に向け地方の声により臨時財政対策債発行は無くす。他、学校空調化の設備拡充、地方の DX への取り組み支援、DX 推進リーダーの育成経費、市町村デジタル人材の確保、市町村による CIO 補佐官任用等に要する経費、水道の防災対策強化、公共施設の集約、複合化の推進等にも予算が拡充されているとしていた。こうしたことから本市行政に持ち帰り、担当課に確認、今期の予算にどのように反映されているかを改めて実施に向けた取組を確認し街づくりにいかしていく。



内閣府

参事官補佐

R7.3.26 地方制度研究会

内閣府 地方創生推進事務局

内閣官房 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局

佐藤 弘康

〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1
内閣府本府庁舎
TEL: 03-3581-4212 FAX: 03-3581-5536
E-mail: hiroyasu.sato.d4j3cno.go.jp

R7.3.26 地方制度研究会
長官官房総務課 こども家庭庁
参事官(会計担当) 予算担当補佐
みょうが ひろゆき
茗荷 寛之

100-6090
東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビルディング 22 階
03-6860-0082
myoga.hiroyuki.a86@cfa.go.jp



地方制度研究会 3月の勉強会について

拝啓 地方制度研究会の皆様におかれましてはますますご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。

さて、3月26日に地方制度研究会の勉強会を参議院議員会館（B101 会議室）にてこども・子育て関連予算、地方創生交付金、自治体関連予算について行います。

勉強会終了後、すぐに懇親会を行います。是非ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年度 子ども家庭庁 予算のポイント

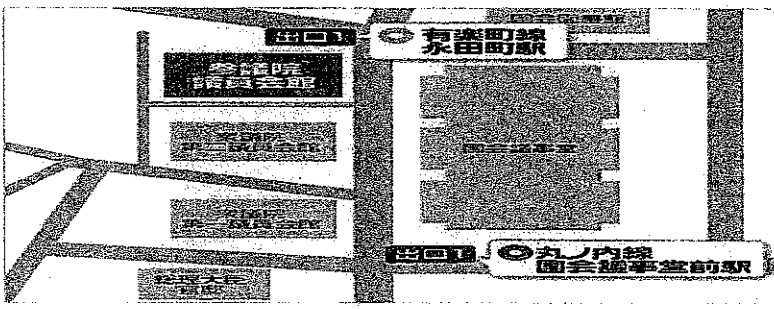
- ・こどものための保育の質の向上
- ・より踏み込んだ、仕事と子育ての両立支援
- ・若い世代の生活と学びへの支援を拡充 など

地方創生交付金

- ・＜地方創生＞新しい地方経済・生活環境創生交付金
規模としても、当初予算ベースで、従来の交付金から倍増（1,000億円→2,000億円 R6 補正でも1,000億円を措置）

自治体関連予算

- ・自治体の災害対応能力・国民保護体制の強化 令和7年度予算4.8億 など

日 時	3月26日（水） 15:00～17:30
場 所	参議院議員会館 B101 会議室 東京都千代田区永田町2-1-1 
懇親会	勉強会終了次第、18:00より赤坂にて懇親会を行いますので是非ご参加下さい。

地下鉄有楽町線 永田町駅1番出口から徒歩1分

地下鉄丸ノ内線 国会議事堂前1番出口から徒歩5分

お問い合わせは下記までお願い致します

TEL 03-6550-1102 中田宏事務所

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	E 8 - 1

項 目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
☐ 資料作成費
☐ 資料購入費
☐ 人件費
☐ 事務所費

支出年月日	令和 6 年 10 月 24 日
支出額	86,880 円 (按分率 %)
支出内容	旅費 (東京 10/30 ~ 11/1)

備 考

旅 費 請 求 内 訳 表

旅 行 先 東京都(特別職)		用 務 政務活動のため					旅 行 期 間 自 10月30日 至 11月1日		日 数 2泊3日	
月 日	旅 行 経 路	路 程 km	鉄 道 賃 運 賃 特 別 料 車 金 急 行 料			船 航 空 賃	車 賃 又 は 定 額	日 当	宿 泊 料	摘 要
										定額表利用 A1451
										合計
	計	0.0	-	-	-	-	-			¥ 86,880 円

航空機利用区間

公用車等利用区間

請 求 書

下記のとおり請求します。

令和 6年 月 日

創和クラブ 代表者 中村 元彦 様

所 属 職 位	等級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印
員	市長級	-			A1451 C2+(F1*3)	86,880	戸田 正人		
					43,980				
					42,900				
計		- 円	- 円	- 円	86,880 円	86,880 円	1 人		

整理番号

E 8 - 1

令和 6年 11月 5日

活動報告書

創和クラブ経理責任者

芝本 和己 様

報告者名 戸 田 正 人

下記の通り、報告します。

日 時	令和6年10月30日から令和6年11月1日
場 所	東京都
目 的	民間による公民共創スペースの視察、和歌山市主催の公民共創サミットの出席、旧市民会館跡地活用による選定事業者との意見交換等
内 容	別紙記載

政務活動報告書

令和6年11月5日

報告者：創和クラブ 戸田正人

10月30日(水)

8:41 くろしお10号 和歌山発 新大阪行
10:06 のぞみ8号 新大阪発 東京行
12:33 東京着

13:00

株式会社日建設計 PYNT 視察

同行者：和歌山市都市再生課堀口氏、東京事務所辻本氏

対応者：株式会社日建設計執行役員石川貴之氏、同コモンズグループアソシエイト三井祐介氏、イノベーションデザインセンター吉備友理恵氏

PYNTは、「さまざまな専門性や課題意識をもつゲスト」と「建築や都市の専門家」をつなげ、まちの未来に新しい選択肢や価値をつくる“共創の場”として設置されている。仲間と横断的に解決できるプラットフォームとして社員はもとより、学生から私達のような行政関係者まで多様な方々が集まり、それぞれの場所で、それぞれの議論が積極的に行われていた。

ピントを魅力的に感じたのは、「あのさ～」から始められる相談相手が必ずそこにいるということ。要はかしこまったものではなく、気軽に相談や雑談ができる誰かがいるということ。また、何らかのイベントが定期的に行われていて、カフェやお酒を飲みながらも可能である。

アイデア出しにおいて大切なのは気軽な気持ちで、忌憚なことを言い合いながらプレストしていくこと。そして必ず仕切り役がいるということ。ここでは吉備友理恵さんがキーパーソンである。

本市において様々な情報が乏しく、それらを解決することができる人材やリソースが少ない。しかし、このような拠点が設置されると人と人、人とモノ、情報等が横断的にフラットな関係で繋がり、本市の課題解決や新たなスタートアップに寄与できるものと考えらる。和歌山市においてもこのような拠点の必要性を感じたと共に、公民共創の楽しさを市民に伝えていきたいものである。



15:30

WPU（株式会社ワンダーパワードュー）視察

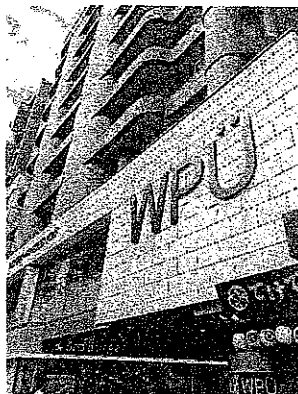
同行者：都市再生課堀口氏

対応者：代表取締役社長入江洋介氏、支配人浅木隆太氏、株式会社 JLL 開発マネージメント部長坂本真純氏

WPU は旧市民会館跡地活用事業における民間施設 KNOT に進出予定であるホテル。このホテルは学生寮とホテルを組み合わせたホテルであり、学生と宿泊者の90%が外国人（欧米系）とのこと。同世代かつ同様の価値観をもつ若者たちがこの場であらたなイノベーションを発生させている。ホテル内には音楽やトークを通して表現できる場としてサウンドブース（DJブース）がある。また、デジタルアートギャラリーなどで新旧のカルチャーに触れることもできる。

学生レジデンスでは、クリエイティビティを刺激する多様なジャンルのワークショップ・イベントなどを定期的で開催されており、一人ひとりが自身の知られざる才能や興味に気づく環境作りをおこなっている。滞在者にとって、このホテルが創造の場となり、次のステップに結びつくような場として位置づけており、様々な価値観が混ざり合い、枠を越えた交流が期待できる場所になっている。

新宿と本市での環境や市場の違いから類似施設とはいかないとのことであるが、WPU が持つ独特の感性による施設運営を期待したい。



16:30

株式会社ジョーンズ・ラング・ラサール訪問

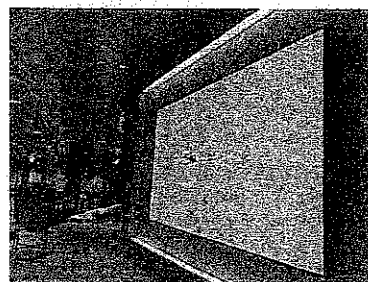
同行者：和歌山市都市再生課堀口氏

対応者：株式会社 JLL 取締役宮本淳氏、開発マネジメント部長坂本真純氏

株式会社 JLL は旧市民会館跡地活用事業における優先交渉者として現在施設の調査、基本設計、金融計画及びリーシング等を行っている。

今回の訪問で河川護岸周辺計画（かわまちづくり）のイメージを共有し本市や和歌山県が協力できること等の意見交換を行った。また、旧市民会館跡地活用と博物館を繋ぐ導線確保等の意見交換も行った。

本市の市駅周辺活性化において旧市民会館跡地活用は大きなポイントとなるため、株式会社 JLL と今後も積極的な意見交換を行い、単なる施設を誕生させるだけではなく、本市の新たな価値を創出する場として期待したいものである。



21:00 ルポール麴町宿泊（1日目）

10月31日(木)

10:30

千代田区役所10階カフェ視察

同行者：和歌山市都市再生課堀口氏

対応者：コミュニティパートナー株式会社代表取締役山森彩香氏

山森氏は千代田区を中心に「メディア事業」「カフェ・バーの運営」「地域イベントの開催」等の分野で活動をおこなっている。

「メディア事業」では千代田区で活動されている人や団体を集めたフリーペーパー「あるまっぷ」の発行、Webサイト、SNS運用をおこなっている。「カフェ・バー事業」では千代田区役所10階の食堂フロアで「桜日



和」の運営を行っており、まちづくりやワークショップ等のイベントなどを組み合わせたカフェは、地域の人と人を繋ぐ役割も担っている。「イベント事業」では地域でマルシェなどのイベントを企画したり、区内のお祭りの際にはお店を出店したりしています。そのほかにも、新しくマンションが建つ際にまちの魅力を伝える取材記事の作成や、連携・パートナーシップを結ぶことによって、ほかの団体や教育機関が区内でつながり、地域に根差した活動をおこなっている。

区役所のカフェを単なる民間運営によるものではなく、地域コミュニティをつくる場として位置づけしていることにより、過去には和歌山県勝浦のまぐろPRイベント(民間)など和歌山県産品のPRも行っている。

今後、東京都の中心である千代田区役所において山森氏のチャンネルを通じ、本市産品のPRや販路拡大の可能性を意見交換してきた。

17:00

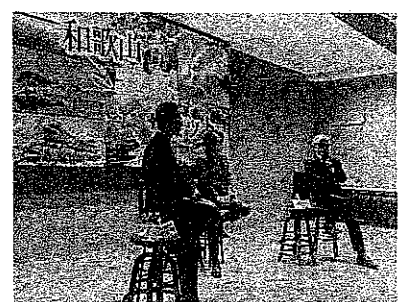
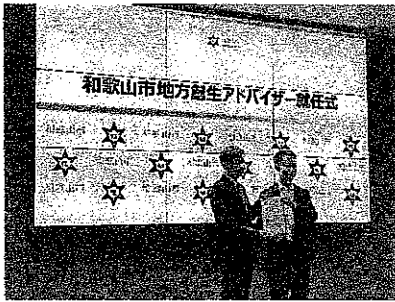
和歌山共創サミット出席

(添付資料①参照)

株式会社バルニバービ佐藤会長から、どうすれば目的地化できるかを考えなければならない。雑賀崎のアマルフィ、日本遺産の和歌の浦だけでは機能しない。そこに他の価値をマルチプライが必要。例：チェリーだけでは印象的ではないが、ミッドナイトという言葉をかけてミッドナイト・チェリーというサウンドするだけでも人々は共感する。古い街並み

に対して新たなものをマルチプライできるかが今後の要点となる。

今後、包括連携協定を締結した世界 2,000 店舗を運営している株式会社トリドール、また、地方創成アドバイザーに就任した株式会社トリトマ山中氏との新たな価値創出を期待したい。



20:30

参議院議員鶴保庸介氏意見交換

22:00 ルポール麴町宿泊(2日目)

11月1日(金)

10:00

和歌山県東京事務所訪問・意見交換

対応者：和歌山県東京事務所湯川学氏、次長岡崎靖典氏、主査萩さおり氏、

昨日行われた本市主催の「和歌山共創サミット」へ協力いただいた東京事務所に対してのお礼。また、本市と和歌山県の連携を強化し、今回いただいた日本の飲食産業のリーディングカンパニーである株式会社トリドールとの公民共創における地域活性化について協議した。

13:30 のぞみ37号 東京発 新大阪行

16:13 くろしお19号 新大阪発 和歌山行

17:18 和歌山着

全体スケジュール

添付資料①

【2024年10月30日（水）】

17:00-19:00 和歌山フェア①（物販）

場 所：渋谷ソラスタ20階 31Cafe

対応者：観光協会

【2024年10月31日（木）】

11:30-13:30 和歌山フェア②（物販&ふるさと納税、ランチ）

場 所：渋谷ソラスタ20階 31Cafe

対応者：観光協会、JTB、TDH

16:45-17:00 地方創生アドバイザー就任式

場 所：渋谷ソラスタ20階 セミナールーム

対応者：犬塚副市長、トイトマ山中様

その他：戸田議員も出席予定

17:10-17:25 トリドールホールディングスとの包括連携協定締結式

場 所：渋谷ソラスタ20階 セミナールーム

対応者：犬塚副市長、TDH栗田様

その他：戸田議員も出席予定

17:30-18:30 和歌山共創サミット

場 所：渋谷ソラスタ20階 セミナールーム

対応者：犬塚副市長、TDH栗田様、バルニ佐藤様
トイトマ山中様

その他：鶴保参議院議員、戸田議員も出席予定

18:30-19:30 交流会

場 所：渋谷ソラスタ20階 31Cafe

対応者：犬塚副市長、TDH栗田様、バルニ佐藤様
トイトマ山中様

その他：戸田議員も出席予定

18:30-19:30 和歌山フェア③（物販&ふるさと納税）

場 所：渋谷ソラスタ20階 31Cafe

対応者：観光協会、JTB

市の魅力やポテンシャルを発信し、メディア等との連携強化・共創を通じた新たな価値創出のための取組

和歌山 共創 サミット

第一部
参加費
無料

食・自然・歴史・文化・観光の魅力を確認し、新たなプロジェクトの

創出や投資の呼び込み等、地方創生・再生への可能性を検討する2日間

2024年

10月31日 Thu. 17:30~19:30

11月18日 Mon. 18:00~20:00

日時

テーマ

観光で創造する地域の未来

対象者

メディア関係者等

会場

裏面に記載のとおり

申込

以下を参照の上、裏面のQRコードから
お申込み下さい。

①氏名 ②住所

③氏名 ④電話番号（連絡先）

※第一部申し込み期限：10月2日（金）

17:00迄

問合せ：和歌山市 市長公室 企画政策部 企画政策課 公民共創室
Tel：073-435-1322 Mail：kikakuseisaku@city.wakayama.lg.jp

主催：和歌山市

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	E9 - 1

項目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 6 年 11 月 7 日

支出額

54,560 円 (按分率 %)

支出内容

旅費 (小松市, 金沢市 11/21 ~ 22)

備考

※ 旅費請求内訳表 添付。

旅 費 請 求 内 訳 表

旅行先 小松市、金沢市(特別職)		用 務 政務活動のため					旅行期間 自 11月21日 至 11月22日		日 数 1泊2日	
月 日	旅行経路	路 程 km	鉄 道 賃			船 賃 航 空 賃	車 賃 実費又は定額	日 当	宿 泊 料	摘 要
			運 賃	特 別 料 両	車 金 急 行 料					
11/21	和歌山市 - 小松市	311.5	3,740 2,120	1,300 2,800	1,200 1,860					
11/22	小松市 - 金沢市	28.4	580							
11/22	金沢市 - 和歌山市	334.3	5,720	5,600 1,300	4,040 1,200					
										合計
計		339.9	12,160	11,000	8,300	-	-			¥ 54,560 円

航空機利用区間

公用車等利用区間

請 求 書

下記のとおり請求します。

令和 6年 月 日

創和クラブ 代表者 中村 元彦 様

所 属 職 位	等 級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印
市 長 級 員	市長級	31,460			C1+(F1*2) 23,100	54,560	戸田 正人		
計		31,460 円	- 円	- 円	23,100 円	54,560 円	1 人		

整理番号

E9-1

令和 6年 11月 25日

活動報告書

創和クラブ経理責任者

芝本 和己 様

報告者名

戸田 正 人

下記の通り、報告します。

日 時	令和 6年 11月 21日から 令和 6年 11月 22日
場 所	小松市・金沢市
目 的	国土交通省、経済産業省が共同で立ち上げたプロジェクト国立研究開発法人産業技術総合研究所「スマートモビリティチャレンジ推進協議会」主催の小松市におけるレベル2自動運転バス（有償運行実施中）を体験、更には金沢市で開催されたシンポジウムに参加。
内 容	

別紙記載

小松市、金沢市 視察レポート

2024/11/23

報告者：創和クラブ戸田正人

22日9:45に会場である小松市コマツナインに集合しなければならなかったので、21日より前泊する。

21日

11:50 和歌山発 くろしお16号

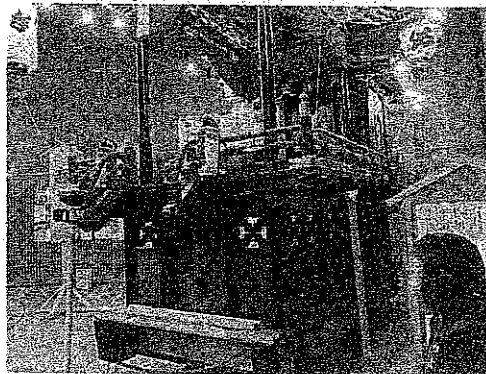
13:16 新大阪発 サンダーバード26号

14:41 敦賀発 つるぎ26号

15:27 小松着

16:00 小松市まちづくり市民財団「こまつ曳山交流館みよっさ」視察

・周辺の商店街の歌舞伎横丁への変身で、「歌舞伎のまち・小松」として「まちの魅力」を高めるため小松市が設置、文化振興財団が管理運営している。小松駅西地区は、町衆文化の代表「曳山子供歌舞伎」をはじめとして、町家、寺社、九谷焼など先人から受け継いだ地域資源が集積しており、その駅西地区の拠点施設が、「こまつ曳山交流館みよっさ」となっている。



22日

小松市における2大交通拠点をつなぐ自動運転バス導入事業について

石川県小松市行政管理部地域交通政策室

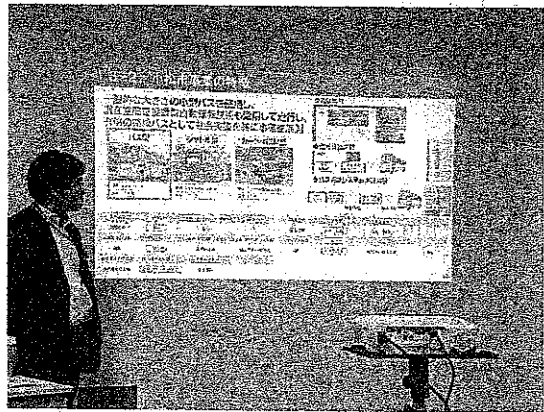
9:50 開始

【イントロダクション】

・取り組みだして5年目、内閣府の未来技術社会実践事業を活用した。

・現在レベル2での運行、レベル4に向けた取り組みと検証を行っている。

・北陸新幹線が敦賀駅に延伸（小松駅が新幹線駅として）、小松市はいわゆる新幹線駅と空港があるまちとして位置づけられている。北陸屈指の広域移動拠点としてレール&フライトの交通網として、まちなかへの人の流れとにぎわいの創出をあるべき姿として目指している。



・運行事業者はジェイ・バス、北鉄加賀バス等、既存の地元運輸事業者で、テクノロジーや技術的サポートとしてBOLDLY、ティアフォー等、また、国土交通省、石川県、総務省、警視庁交通局等が連携して取り組んでいる。

【従前の課題】

フライトの顧客のコミュニティ空港バス利用者は1割、電車やリムジンバス9割、地元市民はマイカーで、地元バスの乗り合いは極めて少なかった。コミュニティ空港バスの便数を増やす等のことを検討したが、ドライバー不足と収支計算ができない。

これらを地域課題と捉え、目指すべき姿として①駅と空港間の移動の利便性、②まちなかへの人の流れによる経済波及効果、③効率化、省人化による持続可能な公共交通、自動運転バス等のことをロードマップにし、小松市のあるべき姿を描いている

【事業として】

・令和2年度から国、県、交通事業者による協議会を組織。補助金がもらえるから取り組んだのではなく、新幹線駅として、また小松空港という空の玄関口が北陸のゲートウェイ

になるなど、将来あるべき姿を見据えて座組を作っていった結果ということ。最終的にはレベル4モビリティ・地域コミティを目指している。

・片道4.4キロ（JR小松駅から小松空港）、片側2車線、17か所の信号、右左折あり、途中の停留所なしの運行。（実際乗車体験をおこなった）

・混在空間を協調型自動運転技術により走行し、優勝路線バスとしての社会実装を軸に事業展開していく。

・国交省の実証実験として信号にセンサーを設置して何色かを識別する。またこの車両は一般的にはカメラによる状況判断で運行しているが、予定信号情報をAIが察知（国のSIT事業を活用）、信号のアルゴリズムを学習する。ライダー8基、レーダー6基を設置、道路や人の状況などの物表情報をバスに伝えて安全運行につとめている。（加速、減速、ブレーキ等の緩和策として）



【現在】

・2024年3月9日現在 2607便、12401人利用（運行開始から195日）

利用者数は2倍増加している

【質問】

Q、JR小松駅から小松空港行のアクセスは、他にもあるのか。競合しないのか？

A、むしろ競合せずに増加傾向にある、料金設定は280円変わらない。新幹線が延伸したことによる利用客の増加（自動運転バスによる効果は測れない）

Q、今後の運行にかかる小松市のかかわり方（補助金）

A、そもそも論、市内バスにおいて運行主体が小松市であり地元バス会社に委託しているところから、今後も同様の運行委託するつもりでいる。しかしながら、今後の人口動態等や観光客の増減は予測できず、簡単に収支を語るには難しい。この取り組みは、小松市の公共交通計画の中に入っているため、こんどこまで財政負担ができるのかといもの今後の課題である。

Q、ライダー・レイダー等から得た物表情報は他の活用の仕方をしているのか（カメラだけでなくライダーがなければ難しいのか）

A、今のところ安全面等の活用だけで他の活用は行っていない。

- ・運行経費の見通し 業務委託をしているので今後もそのようにする
- ・障害者（車いす）利用者に対して、無人運行バスはどのように対応するのか
- ・短期的な実証実験より、運行を繰り返し行わなければデータや学習ができない。（地域により全く環境が違うはず）（思ったより西日があたる等）
- ・国の補助金＝デジ田（運行）、国交省（車両）から

これだけ実証実験が増えてきている状況で国交省はある程度、今後の採択は絞ってくるのでは、と。

////////////////////////////////////
15:00~17:00

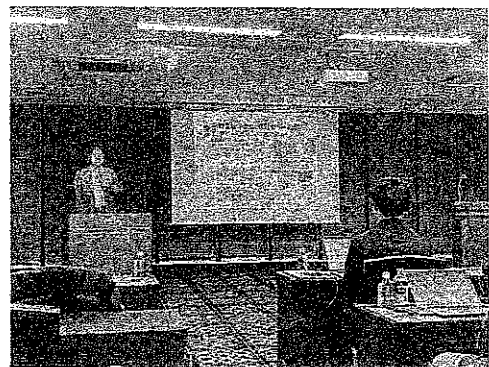
スマートモビリティチャレンジシンポジウム石川

TKP ガーデンシティプレミアム金沢駅西口

- ・モビリティ戦略は、GX、DX等、同様の取り組みになる

【基調講演】

金沢大学 高度モビリティ研究所 菅沼直樹教授



- ・金沢大学の自動運転サービスの社会実装にむけた新たな展開について

珠洲市における実証実験が初。地域の高齢化を課題として自動運転による課題解決を目指している。2016年には金沢市中心部での実証実験。

- ・カメラとライダー技術を活用している（大空町の豪雪地域での実証）
- ・千葉市でロボタクシーの取り組み

世に提供するための課題。インフラ補助、技術革新。どこまで安全性を高めれば、世に受け入れられるのか。

リアル空間とバーチャル空間を融合した安全性評価環境の構築し、世の中に評価してもらう（いわゆる社会課題解決の砦とならなければ受け入れられないのではいか。有益性）

国土交通省 総合政策局 モビリティサービス推進課 統括課長補佐 内山裕弥氏

- ・MaaS 2.0 地域公共交通の DX の新たな展開について

（コンセプト）多様なモビリティを融合して利用者に対してワンストップサービスになるようにということ。

- ・マース事業者は倒産している。サービス利益だけではもうからない。（開発コストをPEYできないで終わっている）

・以前ほどマースと言っていない。なぜか、マースが地域課題のコミットができていない。また、交通に対してガラパゴス化。

- ・要は行政や運行側の話でなく、利用者目線で制度設計がされているのかということ。

- ・サービスレベルの高度化、複数にわたるデータの利活用、各社のデータをオープン化。

・デジタル分析による、利用者の公共交通促進。シーズン、日常のピーク時、要は促し方をデータにより分析及び周知。（例：貴志川線は単純すぎるほどのガラパゴス発信。デジタルを活用すべき）

- ・利用者データを活用。様々な事業者とつながっていく。飲食と交通もアリ。

BOLDLY 株式会社（ソフトバンク） 市場創生部 部長星野達哉氏

- ・小松市における自動運転バスの取り組みの紹介

170 か所の実証実験、16 か所の実用化（本年度には）現在 10 か所

小松市は日本初の自動運転における有償運行。（緑ナンバー）

- ・低速でのレベル4 運行も始まっている（羽田等）カメラとライダー、加えてレイダーを入れることにより他の車両の走行予測を行える

- ・2025年以降レベル4 運行開始 レベル4 運航許可申請をおこなっている

最初は添乗員乗車して安全性を検証し、その後は完全無人化。

課題として利用者の質問に対して誰が対応するのか、障害者の乗り降り、無人運行中に乗客が立ち上がる等の行為が発生した場合等があるが、まずは小松市モデルをつくり運行していく。

金沢市 都市政策局 個通政策監 近藤陽介氏

- ・金沢市における MaaS の紹介

公共交通のあり方 幹（鉄道・バス）、枝（シェアリング）

- ・鉄道は「みなし上下分離」（国の補助が受けられる）で存続していくことに決定した。

公共交通にたいする認識度を上げていく。なぜ公共交通（シェアリング）を利用しなければならないのか。マイカーと公共交通をつなぐモビリティハブを構築している。マイカーを排除するのではなく、マイカーを利用する回数を減らしていくこと。

- ・のりまっし金沢 デジタル交通サービス15万件（運行情報、シェアサイクル等）＊評価は1→改善していかなければならない。

- ・2年前から交通データを活用している。交通政策立案のため人流データと交通データOD 情報、バスの便数等を解析しながらモビリティハブの構想を立てている。

株式会社 MaaS Tech Japan 取締役副社長 清水宏之氏

- ・交通データ利活用取り組み紹介

公共交通のデータを様々な分野で提供し新たなサービスをつくっていく会社

① 交通データを収集し分析する②モビリティ事業者間連携③モビリティビジネス創出

- ・地域交通データをだれもが使いやすくを、目的に応じて使いやすくすることに変化させている

- ・各交通事業者のモードを平準化していくむずかしさの課題がある

交通系カードはそもそも論、決済ログであり、交通のAからBへの対応ができていない。ここで個別ODデータを加えていくことにより一気通貫の交通カードになる。

野村総合研究所

- ・ITS世界会議（高度道路交通システム）の報告

① 自動運転×まちづくり ドイツハンブルグ すべての市民が徒歩5分以内でなんらかのモビリティが活用できるという目標

カーボンニュートラルを見据えている取り組み（特にヨーロッパでは） 基本的にモビリティをシームレスでつないでいくこと。

- ・アメリカニューヨーク州バッファロー地区では駐車場の付置義務

② モビリティ×ダイバーシティ 決済とサービスの一元化

③ ドイツラントチケット 乗り放題（サブスク）公的補助の限度が課題

利用促進の補助、サービスの周知、認知度が必要



スマートモビリティチャレンジ
シンポジウム[石川]

スマートモビリティ チャレンジって？

ご入会はこちら



政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	E 13 - 1

項 目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
☐ 資料作成費
☐ 資料購入費
☐ 人件費
☐ 事務所費

支出年月日	令和 7 年 1 月 24 日
支出額	35,540 円 (按分率 %)
支出内容	旅費(福山市 1/25)

備 考

旅 費 請 求 内 訳 表

旅 行 先 福山市(特別職)		用 務 政務活動のため				旅 行 期 間 自 1月25日 至 1月25日		日 数 即日		
月 日	旅 行 経 路	路 程 km	鉄 道 賃			船 航 空 賃	車 賃 実費又は定額	日 当	宿 泊 料	摘 要
			運 賃	特 別 料 両	車 金 急 行 料					
1/25	和歌山市 → 福山市	314.7	5,500	1,300 4,190	1,200 3,930					人事課計算 (24-0218)
	福山市 → 和歌山市	314.7	5,500	4,190 1,300	3,930 1,200					
計		629.4	11,000	10,980	10,260	-	-			合計 ¥ 35,540 円
航空機利用区間					公用車等利用区間					
請 求 書 下記のとおり請求します。 令和 7年 月 日 創和クラブ 代表者 中村 元彦 様										
所 属 職 位	等 級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印	
議員	市長級	32,240			F1	35,540	戸田 正人			
					3,300					
計		32,240 円	- 円	- 円	3,300 円	35,540 円	1 人			

整理番号

E13 - 1

令和 7年 1月 27日

活動報告書

創和クラブ経理責任者

芝本 和己 様

報告者名

戸 田 正 人

下記の通り、報告します。

日 時	令和 7 年 1 月 2 5 日
場 所	福山市
目 的	福山市地域おこし協力隊が主催し、福山市が後援のシンポジウムとワークショップ参加。「移動支援（おでかけ支援）」をテーマに、広島県福山市や全国の先進的な取り組みの紹介があり、また、参加者全員で課題を整理し、具体的な解決策を楽しみながら考えるワークショップも実施された。
内 容	
別紙記載	
動画資料 https://youtu.be/pSFlnRCEWFs	

2025/1/25 Sat.

創和クラブ 戸田正人

「おでかけしたい！」を諦めない街に～あなたから広がる支援の輪～

シンポジウム&ワークショップ参加のレポート

9:50 くろしお 12号 和歌山⇒新大阪

11:02 のぞみ 17号 新大阪⇒福山

医療・介護・福祉、行政、企業など、多職種の視点を共有しながら、全国の先進事例を学ぶとともに、富山県黒部市、静岡県伊豆市、東京都町田市での成功事例から、移動支援の可能性を探ることができた。

▼イベント概要

日時：2025年1月25日（土）13:30～17:00

会場：itiSETOUCHI tovio（広島県福山市西町1丁目1-1 エフビコ R1M1階）

テーマ：移動支援（おでかけ支援）

▼当日のタイムスケジュール

【第1部：移動に対する取り組み（13:30～14:25）】

☆広島県福山市や他地域での移動支援の取り組みを知る時間

・本イベントの趣旨説明

河村由実子（福山市地域おこし協力隊）

・福山市の取り組み

清水 建太 | 福山市役所都市交通課

・企業事例紹介

荒木 英二 | ウェルビー広島株式会社

「車椅子でも運転したい！運転の免許が取りたい！」といった多くの声に応えるべく活動をおこなっている。現在までに約300件の運転補助装置取付（車いす収納装置含む）実績があり、身体の不自由な方向けの福祉車両架装を主に、一人ひとりの状態に合わせたきめ細やかな対応をモットーに運転サポート、運転補助装置の提案に取り組んでいる。

山田 康文 | アサヒタクシー株式会社

祖父の代から続くタクシー会社を継承し、伝統を守りながらも革新的なアイデアで業界をリード。地域密着型のサービスを重視し、顧客満足度向上に尽力。AI 配車システムやグリーンスローモビリティの導入など、常に時代の変化に対応したサービスを提供している。また、観光振興にも積極的に取り組み、鞆の浦での小型タクシー運行など、地域活性化にも貢献している。

・他地域での実践例：

静岡県伊豆市

那須 識徳 | 中伊豆リハビリテーションセンター / 作業療法士

勤務している病院敷地内に自動車運転コースを併設。様々な障害者の方々にドライビングしてもらうことによる（障害者用車両も含む）データ収集を行い、課題を検証。今後につなげる取り組みを行っている。

東京都町田市

永島 匡 | 株式会社ジョシュ 代表取締役 / 作業療法士

町田市や企業との地域連携、移動支援・医療 MaaS 関連の新規事業構築をおこない、医療介護の情報連携課題にシステム開発を通して取り組む。

【第2部：移動における課題とアプローチ（14:35～15:35）】

☆富山県黒部市のコミュニティドライブプロジェクトで作成した課題デザインマップを使って課題を整理

・富山県黒部市のコミュニティドライブプロジェクトの紹介

小柴 徳明 | 一般社団法人 smart ふくしラボ

2015 年に新設した経営戦略係として法人の基盤強化、中長期ビジョン策定、シンクタンク事業の立ち上げなどに取り組む。地域福祉分野における ICT 利活用研究、社会参加や地域に見える化などが関心ごと。2022 年 4 月には、福祉分野のデジタル化や DX 推進を図る一般社団法人 SMART ふくしラボを設立。国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）でソーシャル ICT システム研究室の協力研究員も務めている。

・課題デザインマップを使ったワークショップ①

近藤 哲朗 | 株式会社図解総研

2018 年『ビジネスモデル 2.0 図鑑』が 10 万部のベストセラーとなり、「ビジネスモデル図解」で 2019 年度 GOOD DESIGN AWARD 受賞。2020 年ビジュアルシンクタンク「図解総研」を設立。大手企業・研究機関・行政とともに環境問題や政策、共創など社会のふくざつな情報を

可視化する図解に取り組む。今回は黒部市の移動に関するかかわり方及び課題を図解化し、ステークホルダーとの共有化を目指している。

【第3部：自分のアクションプランを立ててみよう（15:45～16:55）】

☆ワークショップ形式で、自分ができる具体的なアクションをチームで描いた

私たちのチームでは、地域内で走行している空き送迎者のプラットフォーム事業を提案した。

また、サービス提供者には金銭に変わるお役立ちアワードを提唱し、移動支援を市民一人ひとり、また地域内企業による助け合いマインドの醸成の必要性も発表した。

▼主催・協力

主催：河村由実子（福山市地域おこし協力隊）

協力：福山市

17:16 さくら 560号 福山⇒新大阪

18:43 くろしお 25号 新大阪⇒和歌山

19:53 和歌山着

政務活動費支出調書兼領収書等貼付用紙

会派名	創和クラブ
整理番号	E14 - 1

項目

- ☒ 研究研修費
 ☐ 調査費
 ☐ 広報費
 ☐ 広聴費
 ☐ 要請・陳情活動費
☐ 会議費
 ☐ 資料作成費
 ☐ 資料購入費
 ☐ 人件費
 ☐ 事務所費

支出年月日

令和 7 年 1 月 24 日

支出額

71,720 円 (按分率 %)

支出内容

旅費 (福岡市, 2/3 ~ 4)

備考

E14-1

旅 費 請 求 内 訳 表

旅 行 先 福岡市(特別職)		用 務 政務活動のため					旅 行 期 間 自 2月3日 至 2月4日		日 数 1泊2日		
月 日	旅 行 経 路	路 程 km	鉄 道 賃			船 航 空 賃	車 賃 実費又は定額	日 当	宿 泊 料	摘 要	
			運 賃	特 別 両 料	車 金 急 行 料						
2/3	和歌山市 福岡市	700.9	9,300 210	1,300 6,600	1,200 5,700					人事課計算 (24-0229) 合計 ¥ 71,720 円	
2/4	福岡市 和歌山市	700.9	210 9,300	6,600 1,300	5,700 1,200						
計		1,401.8	19,020	15,800	13,800	-	-				
航空機利用区間					公用車等利用区間						
請 求 書 下記のとおり請求します。 令和 7年 月 日 創和クラブ 代表者 中村 元彦 様											
所 属	等級	運 賃	日 当 宿 泊 料	そ の 他 料 金	旅 費 定 額 表	支 給 額	氏 名	請求印	領収印		
職 位											
市 長 級		48,620			G1+(F1*2)	71,720	戸田 正人				
議 員					23,100						
計		48,620 円	- 円	- 円	23,100 円	71,720 円	1 人				

整理番号

E14-1

令和 7年 2月 7日

活動報告書

創和クラブ経理責任者

芝本 和己 様

報告者名

戸田 正人

下記の通り、報告します。

日 時	令和7年2月3日~4日
場 所	福岡市
目 的	スマートモビリティチャレンジシンポジウムへ出席、九州モビリティの進化やMaaS2.0 地域交通 DXに向けた取り組み等を学ぶ。また、福岡市立アーティスト・カフェ・福岡を視察。廃校をリノベーションした施設での取り組みを担当者と意見交換。
内 容	
別紙記載	
動画レポート	
https://youtu.be/6ZaCAM75EtU?si=fh5MvScC_L8n0Xp4	

2025年2月4日～5日

報告者：戸田正人

スマートモビリティチャレンジシンポジウム福岡及び ARTIST CAFE FUKUOKA レポート

和歌山 → 博多

2025年02月03日(月) 10:50 出発

[出発] 和歌山

| 10:50 発

| くろしお 14 号

| 11:51 着(2 番線)

[乗換] 新大阪

| 12:02 発(2 2 番線)

| のぞみ 21 号

| 14:30 着(1 6 番線)

[到着] 博多

【開催日時】 2025 年 2 月 3 日(月) 15:00～17:30

【開催場所】 TKP ガーデンシティ博多新幹線口

【プログラム】

1. 基調講演

登壇者：一般社団法人計量計画研究所理事 神戸大学客員教授 牧村和彦氏

モビリティサービスのリデザイン～九州モビリティの進化とは～

1 移動の変化クルマ社会の変化

- ・若者の移動の変化が著しい。40代から60代が多く、10代や20代が低い（ここが問題）
- ・運転者の構成の変化がおきている。ずっと運転している人に公共交通を進めるのは難しい（運転脳ができあがっているため）
- ・車のボディが大きくなっていくにつれて歩行者や自転車が走行しがたい、特にフランスではキックボードのようなコンパクト移動ができる手段に変化していつている。

2 モビリティ社会の新潮流

- ・イギリスの道路ヒエラルキーを変えていく取り組みが行われている（歩行者優先⇒自転車⇒

2025 年 2 月 4 日～5 日

報告者：戸田正人

スマートモビリティチャレンジシンポジウム福岡及び ARTIST CAFE FUKUOKA レポート

和歌山 → 博多

2025 年 02 月 03 日(月) 10:50 出発

[出発] 和歌山

| 10:50 発

| くろしお 14 号

| 11:51 着(2 番線)

[乗換] 新大阪

| 12:02 発(2 2 番線)

| のぞみ 21 号

| 14:30 着(1 6 番線)

[到着] 博多

【開催日時】 2025 年 2 月 3 日(月) 15:00～17:30

【開催場所】 TKP ガーデンシティ博多新幹線口

【プログラム】

1.基調講演

登壇者：一般社団法人計量計画研究所理事 神戸大学客員教授 牧村和彦氏

モビリティサービスのリデザイン～九州モビリティの進化とは～

1 移動の変化クルマ社会の変化

- ・若者の移動の変化が著しい。40代から60代が多く、10代や20代が低い（ここが問題）
- ・運転者の構成の変化がおきている。ずっと運転している人に公共交通を進めるのは難しい（運転脳ができあがっているため）
- ・車のボディが大きくなっていくにつれて歩行者や自転車が走行しがたい、特にフランスではキックボードのようなコンパクト移動ができる手段に変化してきている。

2 モビリティ社会の新潮流

- ・イギリスの道路ヒエラルキーを変えていく取り組みが行われている（歩行者優先⇒自転車⇒

車)。車は自転車を追い越してはいけない、まちなかはすべて30キロ規制（デンマーク・ブラッセル市2021年1月から、スペイン、パリ、ボルドーなど欧州に広がっている）等、道路で取り組みが可視化されている。

- ・フランスの国鉄が議論している。マイカーがそのままローカル線に乗り入れる。（モデル車両が完成している）

3 モビリティサービスのリデザイン

- ・人間中心のモビリティ社会へ。金沢市の事例ではバス149台（ひと6297人）、車1953台（ひと2530人）、ピーク時にデータベースを活用してより最適化できるのではないか。

- ・アントワープ市（ベルギー）、ご当地マースの徹底。

- ・パリオリンピック時には多様な経路検索アプリに対し、とくに開催期間中はひとつのアプリに集約した。コンサートやイベント開催時におけるご当地マースアプリの有用性。

- ・無人運転時代を見据えたタッチレス改札（ハンブルグ市）

4 スマートモビリティ・データガバナンス

- ・アプリによればバスが上位にでてこない。パーソナルモビリティ等が上位にくる。これらをどうガバナンスしていくか。自治体は自身が関係する交通（バスや鉄道しか）を知らない。他の移動手段のデータをリンクしながら交通施策を行っていくべき。

- ・和歌山市のレンタル自転車やタクシー、及びパーソナルモビリティ等の活用データを知る必要があるのでは。

- ・交通事業者からあがってくるデータを国が地方におろしていく（欧州）。フランスはEVバスを自治体で導入し、民間事業者に無償貸し出しを行っている、理由は交通ガバナンスをきたすため。データを活用するため。

- ・公共ライドシェアの必要性。

- ・マイカーの移動に負けないくらいの移動サービスの充実性。

2. MasS2.0 ～地域交通 DX の新たな展開に向けて～

登壇者：国土交通省 総合政策局 モビリティサービス推進課 総括課長補佐 内山裕弥氏

- ・地域公共交通という呼び方から地域交通という呼び方に変えた（すべての交通を含めた考え方）

- ・サービス提供のサイロ化（業界構造がもたらす問題）バス事業者だけでも全国で2000社

- ・バス会社単体では投資余力がなくDX化できていない⇒データ連携の広域化

- ・公共ライドシェアの具体化を目指している（国交省）

- ・MasS2.0について、交通空白解消にむけたとりくみ（リデザイン）

- ・データの活用とは、リファレンスが必要。ベストプラクティスの開発を国自ら構築予定。ま

た、ベストプラクティスを全国どこでも活用をできるためのシステム構築⇒オープンソース化していく。

- ・具体的には、データを使って地域交通を可視化し、より効果的に利便性・生産性を高める。
- ・目指す姿、多くの Maas アプリがサイロ化しているので、一元化する。マルチモーダル×シームレス、アプリレイヤーを共創領域としつつ、バックエンドレイヤーに関連を紐づける
- ・シームレス化（例・フェリー・イコカ（鉄道）・バス・飛行機・レンタルモビリティとの不連動性）
- ・チケット的データとバックエンドデータが違う
- ・このバス停を無くして、デマンドバス停にすればどれくらいの利用者が増えるか等の考察、シュミレーションを実施。
- ・日本版マース推進支援事業の予算が多くある

3.福岡県における先導的な取組紹介

（1）九州 MaaS の取組紹介

登壇者：一社）九州経済連合会 一社）九州 MaaS 協議会 事務局長 木下貴友氏

- ・高齢化率29%、買い物難民100万人など社会状況の変化によって移動の見直しが必要
- ・観光課題として消費を促進する取り組みが必要（長期滞在、各地巡り等）
- ・各運輸事業者の競争から共創の時代が到来
- ・西鉄バス VS JR 九州の競争合戦時代から、バスから鉄道へ鉄道からバスへの取り組みをはじめ、よりよい交通サービスの提供に努めている
- ・今後は、それぞれが持つモードを全部モータライズして、サービスの提供をしていくこと。そのためにはアプリやデータ、決済等の一元化が必要。また、各事業者を説得するためのエビデンスとなるはず（デジタルツインやデータのオープン化による仮説）
- ・JR 日田彦山線による西鉄バスと JR 九州の共創事業

（2）福岡県における MaaS 事業の取組紹介

登壇者：福岡県 企画・地域振興部 交通政策課 企画監 右田博也氏

- ・交通データのオープン化により人流やニーズ等の把握に努めると共に、一元化アプリによる利便性を高めている（買い物等の事業者等も連携）
- ・福岡県 MaaS 実行委員会はバス・鉄道・航空・レンタカー・タクシー・観光事業者等が加盟
- ・福岡県内のコミュニティバスは29市町オープンデータ化をしている
- ・各エリアに Maas 検討会議を設置⇒九州 MaaS 協議会に委託（実践するため）
- ・日田彦山線について、九州大豪雨によりダメージを受けた軌道路線をバスレーンに代替し新

たな交通手段として活用している。また、各拠点駅からグリスロやレンタバイク等の二次交通を提供しシームレス移動も開始（AI オンデマンド「のるーと」と連動している）

- ・データ利活用の目指すべき姿は、交通課題を可視化すること。データを収集して、どう分析するかを民間と協業している。（人流や交通、時間軸、属性等）データ分析日立製作所と協業。
- ・移動していない方がどこに移動したいのか等の潜在的ニーズの分析。

雑感

・かねてから本市の課題であった関空から直行便がなく和歌山市へのアクセス不便を、関空から和歌山市へのライドシェアや泉佐野駅やりんくう駅からのマース的アクセス、また、本市に到着してからのマース的アクセス連動を考えていけばよいのではないかと。特に海外からのインバウンド客の移動データを取得できるため、今後の観光及び消費データを政策に活用できると考えられる。いずれにしても、自治体が地域移動および広域移動に対するガバナンスに対し、既存の事業者を説得してこそ、あらたな地域交通の進歩がある。するためには国によるバックエンドデータを示していただき、エビデンスを高めたうえで、地域交通協議会で合意形成を図っていく必要がある。

- ・都市部で平日と週末の道路のあり方、まちのあり方を新たなモビリティによる活用を考えてみる。

2月4日（火）

福岡市が運営するアーティストの成長と交流拠点「ARTIST CAFE FUKUOKA」を視察

アテンド：指定管理者 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社統括部長 高橋聡氏

動画レポート：<https://youtu.be/6ZaCAM75EtU>

【開催日時】2025年2月4日（月）11:00～12:30

【視察場所】ARTIST CAFE FUKUOKA

【調査内容】

1. 視察の目的

和歌山市における文化芸術活動の活性化および、地域コミュニティ形成の新たな拠点づくりを検討するため、福岡市の「ARTIST CAFE FUKUOKA」の視察を行った。

2. 施設概要